

土木建築 工事基本知識講座

昭和2年 第10編の3

コンクリートに関する誌上講演

鉄筋混凝土の耐震價値と施工法

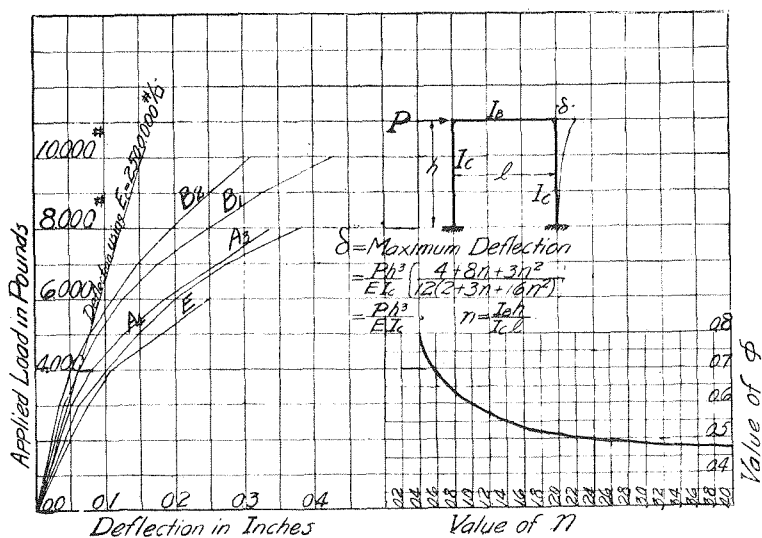
工學博士 阿部美樹志

3

其次に此實驗に依つて得ましたもう一つの大切な事柄は、打繼に就いては有ります。例へば柱の根、或は柱の上部で打繼いだ場合に其の爲めにされだけ悪い結果を強度上に及ぼすか云ふ事である。是は私共の長い間に亘り心配して居つた所でございます。それ故色々な施工方法で此の打繼を云ふものを弱めない方法を探つて参りました。實驗によりますと非常に面白い結果が出て居ります。

私共は打繼點を如何に改良しても打繼のな

架構撓度圖 (續力)



いものより強くなる云ふことはないだらうと斯う考へて居りました。順序から申しますれば、打繼のないものは一番宜しい、其次は打繼を改良したもの、其次は打繼を其儘何等改良しないもの、斯う考へて居つたが。實驗の結果によりますと、先きに申しますやうに補助筋を入れて、改良して打繼をした柱は、全く打繼のないものよりも強い云ふ事つまりより多く信頼の出来る云ふ結果になつたのであります。是は私共豫想外でありまして、色々な方面から研究して見ましたが、矢張り深く考へますると結局さうならなければならぬ云ふ結論に達しました。是は其の實驗の結果をまとめた圖の一つでありますが、横距はフレームの撓度で、縦距は同じく加へた横力でありますから荷重と撓度の關係を示してあります。

B2は柱脚に打繼がありまして、それには補助筋を入れて打繼部を改良した試験材であ